

ひとつのことば

北原白秋

ひとつのことばでけんかして ひとつのことばでなかなかおり
ひとつのことばで頭が下がり ひとつのことばで心が痛む
ひとつのことばで楽しく笑い ひとつのことばで泣かされる
ひとつのことばは それぞれに ひとつの心を 持っている
きれいなことばはきれいな心 やさしいことばはやさしい心
ひとつのことばを大切に ひとつのことばを美しく

5年生のK君が、時々私の所に来て、練習をしてきた暗唱を発表してくれています。その中に、私が好きで、時々子供たちにも紹介していた詩があったので紹介します。本文はずいぶん昔に教えてもらって知っていたのですが、北原白秋の作だったということを知ったのは最近のことです。他の子供たちにも、ぜひ覚えてほしいと思っています。

言葉には昔から心が宿ると（魂とも）いわれています。ですから、乱暴な言葉遣いがあった場合はたしなめますし、簡単にあきらめるような言葉を聞けば励まします。「殺すぞ！」などという極端な言葉を吐く子には、「この子の心は大丈夫だろうか？」と心配してしまいます。皆さんの周りではいかがでしょうか。

子供は、元来真っ白な状態で生まれ、それが徐々に言語を獲得していきます。すなわち、子供たちの言語は、子供たちを取り巻く環境そのものに影響を受けるのであって、子供自身に責任はないと考えます。学校ではもちろん、子供たちが恵まれた言語環境の中で過ごせるように努力しています。しかし、子供たちがより多くの時間を過ごす、ご家庭や地域のご協力無くしてできることではありません。手を携えて、子供たちのよりよい言語環境づくりに努めたいものです。

校外学習が続きます

コロナの感染症がひとまず落ち着き、今月末の4年生を皮切りに、これから各学年の校外学習や合宿・修学旅行が続きます。子供たちには「校内で一人でも感染者が出たら台無しになる」と注意を促しています。運動会や丸小祭りのように、子供たちが楽しみにしている行事が続きますので、私たち大人も気を緩めることなく、感染症対策を継続していきたいと思っております。ご協力をお願いします。



未来につながる学力

先月の末に、本年度の「全国学力・学習状況調査」の結果が発表されました。その衝撃的な結果についてはご存知の方も多いと思いますが、小学校6年生の算数で、なんと宮城県は全国で最下位となりました。他の学年や教科でも、毎年下位に甘んじています。そして、その県のデータと比較しても、町内や本校の結果は平均を下回っています。

単年度の結果に一喜一憂するつもりはありませんが、毎年同じような状況が続いていることに対しては、県民としても町民としても忸怩たる思いがあります。5月の「校長室だより」に「ルルブル」について書きましたが、丸森小の子供たちの学力向上のために、私なりにできる限りの手を尽くしていきたいと思っています。

学力づくりは学ぶ生活習慣づくり

少し前になりますが、秋田県東成瀬村の鶴飼教育長から話を伺ったことがあります。宮城県とも境を接する人口 2,500 人ほどの寒村ですが、全国学テのトップ常連である秋田県の中でも高い学力の村として知られています。すなわち、仙台市のような都市部の恵まれた教育環境を私たちが羨む理由にはなりません。

話を聞く中で、私が特に印象に残ったのは「習慣づくり」ということでした。「学校での学ぶ習慣」「家庭での学ぶ習慣」「地域の中で学ぶ習慣」……。習慣になるということは「あたりまえ」になるということです。東成瀬の子供たちは、学力向上のために取り立てて努力しているわけではなく、「自分たちにとってのあたりまえの学習」をあたりまえに行っているということなのです。

宮城の子にとってのあたりまえは？

最近読んだ川島隆太教授の「スマホが学力を破壊する」という本の中に、たくさんの仙台の子供たちのデータが紹介されています。簡単に言えば、スマホやゲーム・ネットに対する依存度が高ければ、それだけ学力は低くなる傾向にあるということです。仙台は、宮城県の中でも学力は高い方なのですが、このことから、宮城の子供たちの生活習慣がスマホやゲームに傾いていないか心配になってしまいます。丸森の子供たちの「あたりまえ」がスマホやゲーム前提にならないことを願いたいものです。

未来につながる学力のために

子供たちの学力づくりが生活習慣づくりである以上、一朝一夕に本校の学力向上が達成できるとは思いません。ただ、学校では「話をしっかり聞くこと」「体をしっかり鍛えること」「集団の中で学び合うこと」などがあたりまえになるよう努力しています。担任レベルでは、学年に応じた校内でのより良い学習習慣づくりに努めています。家庭でも、「早寝・早起き・朝ごはん」「宿題を忘れない」「メディアやゲーム、ネットに依存しない」などがあたりまえになるよう、ぜひお声掛けください。

子供たちに、学校や家庭で「学びに向かう姿勢と習慣」がしっかり身に付き、それが「あたりまえ」になれば、それは子供たちにとって「生涯役に立つ本当の学力」になると思うのですがいかがでしょうか。